

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2016(v4.02)

1 建物概要

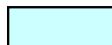
建物名称	(仮称)京町ビル	BEE	1.7	BEEランク	A	★★★★
------	----------	-----	-----	--------	---	------

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	4.0 /5		よい
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	4.0 /5		よい
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.02)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.2
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3
Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 2.9
Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.7
周囲の建物に有害物質のある建築資材等は、使用せず、LED照明や節水コマ等を使用つつ環境に配慮した。	給排水、衛星設備は、なるべく節水型器具を使用し、節水型器具としては、エコマーク製品に認定されたものあるいは同等品の性能を有する。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 4.1
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4.1
LR2/ 1.1 節水	スコア 4
敷地周辺に空地等を設け低中木の木を植栽し、屋上に低中木等に植栽を使用して環境に配慮した。計画敷地内にゴミステーションを設置。自転車置き場を設置。建築利用者が利用者が自転車を敷地外に路上駐車させないように立体駐車場を設け、駐車場を確保した。	水資源を大切にするように、主要水栓に節水コマ等を使用した。
豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.7
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 4
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
屋上に屋上緑化を確保しなるべく室外環境にやさしい環境に配慮した。ブラインド等を設置して、眩しい時間帯でもデスクワーク等に影響がでないように配慮した。	敷地周辺に空地等を設け、低中木の木を植栽し、屋上に低中木等を植栽し、周囲の環境に配慮した。
4 高齢社会への対応	スコア平均 4.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 4
高齢者等に配慮し、入り口はフラットにし、誰もが使いやすいものにするため、整備すべき施設やスペースを確保した。	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.87
	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: - 0.63
	外構緑化指数 5 %
	建物緑化指數 31 %



: 入力欄

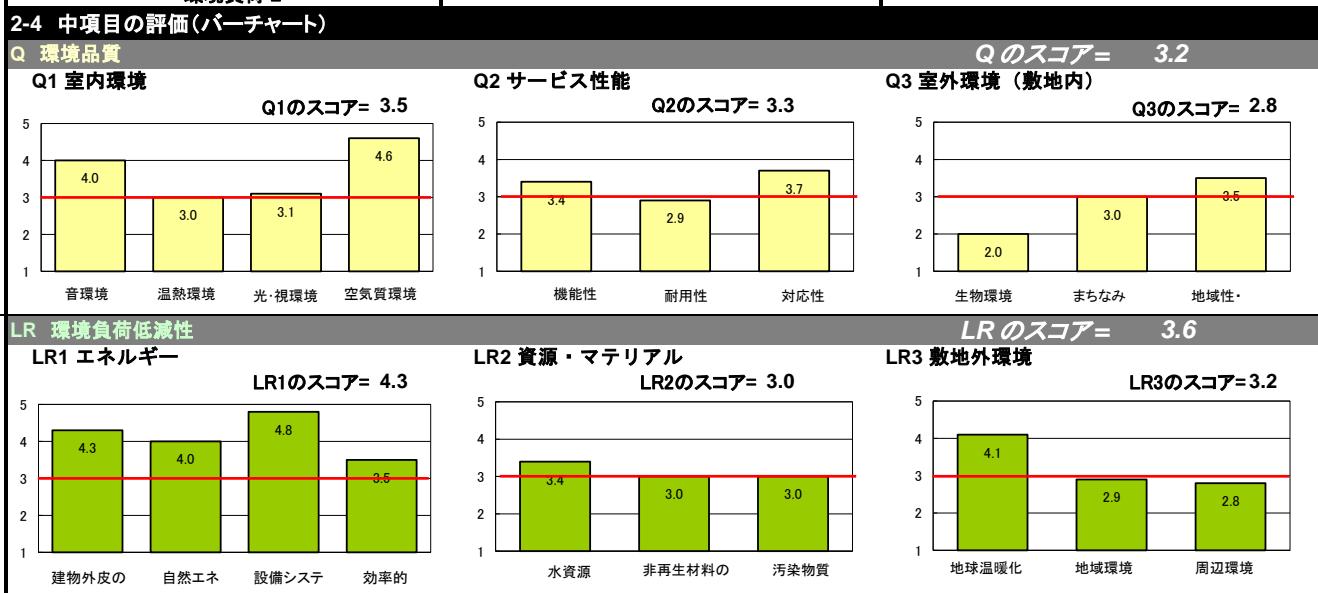
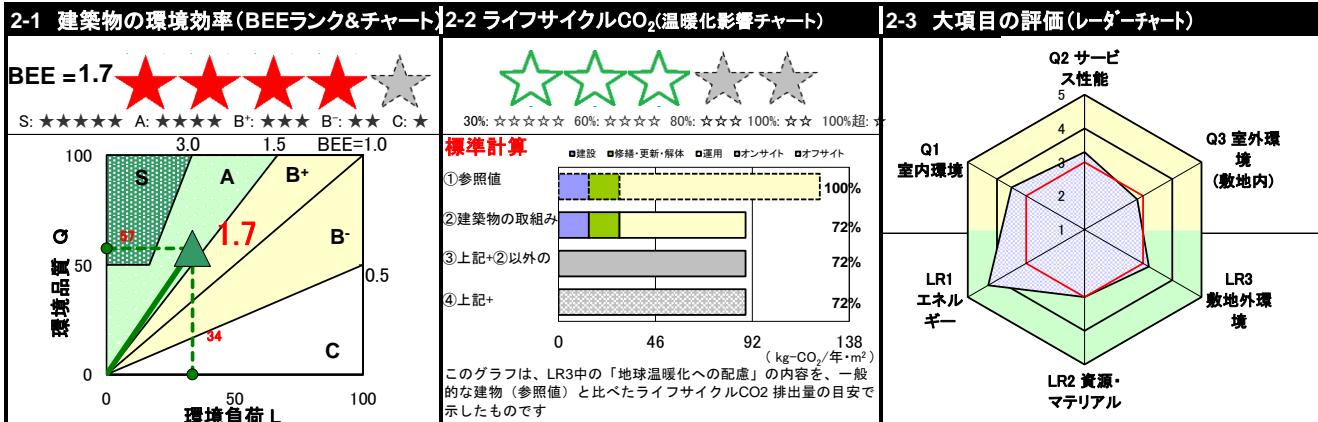


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京町ビル、新築工事	階数	地上11F
建設地	福岡県北九州市小倉北区京町3丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定)
建物用途	事務所、物販店、	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2028年2月 0.0	評価の実施日	2024年10月29日
敷地面積	1,245 m ²	作成者	市川 雄司
建築面積	873 m ²	確認日	2024年10月29日
延床面積	7,143 m ²	確認者	市川 雄司



3 設計上の配慮事項		その他	
総合		計画建築物が、景観条例の小倉都心地区景観計画区域内行為の範囲に入っており、建築物を周囲の建物に圧迫感を与えないよう周囲の建物に調和するように色彩等に配慮し、建築物の高さを周囲の建物と同等の高さにし、周	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	その他
室内環境については、冷房時28°C暖房時22°Cに設定をし、なるべく室内環境にやさしい環境に配慮した。また、建築建材はJIS、JASIに規定されたものを全面的に採用した。	給排水、衛星設備は、なるべく節水型器具を使用し、節水型器具としては、エコマーク商品に認定されたものあるいは同等品に性能を有する機器とする。バリアフリー計画は、バリアフリー新法建築移動円滑誘導基準に満たすように配慮し、屋上緑化を壁面緑化で確保し外観から設備機器が見えないように配慮した。	屋上の屋上緑化を確保し、なるべく室内環境にやさしい環境に配慮した。ブラインド等を設置して、眩しい時間帯でもデスクワーク等に影響がでないように配慮した。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律12条第1項(同法第15条第2項)の規定によりBEIの数値0.8以下にした。また断熱材を設置し、照明機器をLEDにしなべく環境に配慮するように努めた。	水資源を大切にすることにより、主要水栓に節水コア等を使用する。	敷地周辺に空地等を設け低中木の木を植栽し屋上に低中木等に植栽を使用して環境に配慮した。計画敷地内にゴミステーションを設置。自転車置き場を設置。建築利用者が利用者が自動車を敷地外に路上駐車させないように、立体駐車場を設け、駐車場を確保した。	

- CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- 「ライフケーブルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 評価対象のライフケーブルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版 (仮称)京町ビル 新築工事		■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)						
スコアシート 基本設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境				4.0	0.15			3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-	3.5
1.2 遮音				5.0	0.40	-	-	
1.2 遮音	1 開口部遮音性能			5.0	0.66	3.0	-	
	2 界壁遮音性能			5.0	0.34	3.0	-	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	-	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		天井: ロックウール系吸音天井材、床: カーペットを使用する。		4.0	0.20	3.0	-	
2 溫熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
2.1 室温制御	1 室温	設定温度夏: 28°C、冬: 22°C		5.0	0.39	3.0	-	
	2 外皮性能			3.0	0.24	3.0	-	
	3 ゾーン別制御性			1.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用				3.0	0.33	-	-	
3.1 昼光利用	1 昼光率			3.0	0.51	3.0	-	
	2 方位別開口			-	-	3.0	-	
	3 昼光利用設備			3.0	0.49	3.0	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.25	-	-	
3.2 グレア対策	1 昼光制御			3.0	1.00	3.0	-	
	3.3 照度	全般照明方向で照度が500lx以上1000lx未満		4.0	0.13	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.29	3.0	-	
4 空気質環境				4.6	0.25	-	-	4.6
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
4.1 発生源対策	1 化学汚染物質	JIS、JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用。		5.0	1.00	3.0	-	
	4.2 換気			4.0	0.30	-	-	
	1 換気量	自然換気有効開口面積率が居室床面積の1/15以上。		4.0	0.36	3.0	-	
4.3 運用管理		自然換気有効開口面積率が居室床面積の1/15以上。		4.0	0.28	3.0	-	
4.3 運用管理	2 自然換気性能			4.0	0.36	3.0	-	
	3 取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は、各種排気口と6m以上離して設置。		4.0	0.20	-	-	
	1 CO ₂ の監視	管理マニュアル等を整備する。		4.0	0.50	-	-	
4.4 喫煙の制御		全館分煙		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-	
1.1 機能性・使いやすさ	1 広さ・収納性			4.0	0.28	3.0	-	
	2 高度情報通信設備対応	OAフロア等によりレイアウト変更に対応ができる		4.0	0.28	3.0	-	
	3 パリアフリー計画	誘導基準		4.0	0.44	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-	
1.2 心理性・快適性	1 広さ感・景観			3.0	0.33	3.0	-	
	2 リフレッシュスペース			3.0	0.33	-	-	
	3 内装計画			3.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1.3 維持管理	1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
	2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
2.1 耐震・免震・制震・制振	1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
	2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.30	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数	1 転体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔			4.0	0.10	-	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性	1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
	3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
	4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
	5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり		3.7	0.30	-	-	3.7
	1 階高のゆとり		4.6	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ		5.0	0.60	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		4.0	0.40	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		4.0	0.30	3.0	-	
	1 空調配管の更新性		2.8	0.40	-	-	
	2 給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.20	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地内緑化		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.87		4.3	0.20	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用	ライトシェルフ、自然通風		4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.63 非住宅 住宅(専有部)一		4.8	0.50	-	-	4.8
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	エネルギー分析の実施		4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水コマ等に加えて、省水型器具などを用いている。		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒	CO2冷媒冷凍機		4.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	積極的な省エネルギー対策		4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

